

第3回 東京 2025 デフリンピックに係る大会準備実務者会議
(議事要旨)

1 開催日時

令和8年1月23日(金曜日) 10時00分から10時45分まで

2 開催場所

東京都庁第一本庁舎 33階北塔 特別会議室N3

3 構成員等

○構成員

(一財)全日本ろうあ連盟	河原 雅浩	副理事長
東京都スポーツ推進本部	渡邊 知秀	本部長
(一財)全日本ろうあ連盟デフリンピック運営委員会	久松 三二	委員長
(公財)東京都スポーツ文化事業団デフリンピック準備運営本部	小室 明子	本部長

○事務局

東京都

4 要旨

○全日本ろうあ連盟 河原副理事長

- ・ただいまから、第3回東京 2025 デフリンピックに係る大会準備実務者会議を開会する。
- ・議題について、事業団より順に説明をお願いします。

○デフリンピック準備運営本部

- ・議題1 大会の振り返り(東京都スポーツ文化事業団デフリンピック準備運営本部)について、資料に沿って説明。

○デフリンピック運営委員会

- ・議題2 大会の振り返り(全日本ろうあ連盟デフリンピック運営委員会)について、資料に沿って説明。

○東京都

- ・議題3 大会の振り返り(東京都)について、資料に沿って説明。

○全日本ろうあ連盟 河原副理事長

- ・議題の内容について、質問や意見等があれば伺いたい。

○東京都 渡邊本部長

- ・今大会の運営面やサービスについて選手団からサービスに対する高い評価と感謝の声が寄せられたとあるが、I C S Dや全日本ろうあ連盟として今大会をどう評価しているか。
- ・また、過去大会と比較してよかった点、今後のデフリンピック大会に活かせる点や引き継いでいきたい点について伺いたい。

○デフリンピック運営委員会

- ・大会に対する評価であるが、I C S Dや各国選手団長からは、過去にないデフアスリートファーストの大会であったと評価をいただいた。理由として、競技施設・審判員・競技運営のレベルの高さや、デフアスリートが最高のパフォーマンスを発揮できる環境があったこと、また、輸送・競技スケジュールの時間の正確性は、過去大会にはないものであったことが挙げられる。選手の負担もほぼなかったと聞いている。デフリンピックスクエアや競技会場での選手向けの補食提供等に対しても高評価であった。
- ・今後に関続きでほしい点については3つある。今大会では、今までのデフリンピックにはない運営のモデルを作った。きこえない我々当事者団体と東京都の皆様をはじめとしたきこえる方々と共に運営を行い、それが共生社会のモデルとなったということ。2つ目は、サインエールを開発して新しい応援スタイルが生まれたこと。3つ目は、当日の多くの観客が来場され、選手にとってはとても励みになったということ。これは大会を盛り上げるために、東京都や全日本ろうあ連盟が何年も前から気運醸成の取り組みを行ってきたことによるものであると考える。今後もこの取組を参考にしていきたいと思う。今までのデフリンピックでは、観客がほぼいないという状態をずっと見てきた。競技施設も十分なものではなかった。この東京大会のレベルを、そのまま次の大会に関続きでいってほしいと思う。

○東京都 渡邊本部長

- ・大会が100周年の記念大会として、世界の選手に満足いただけたことを確認できた。
- ・次回アテネ大会へ向け、東京大会の取組が繋がっていくとよい。
- ・ろうあ連盟からも今大会の成果を次大会の組織委員会へ伝達していきたい。
- ・東京大会が、デフリンピックのレベル向上の契機となり、次の100年の礎となることができたらと期待する。

○全日本ろうあ連盟 河原副理事長

ありがとうございます。他に何か質問や意見等があれば伺いたい。

○デフリンピック運営委員会

- ・競技で視覚的な情報保障機器を設置したが、大会後の活用については何か考えているのか。過去大会における情報保障に関するデータがなく、手探りの状況があったので、今後競技団体等も参考にできるよう仕様等の公開をする等、今後に関かす道はあるのか伺いたい。

○デフリンピック準備運営本部

- ・今回の機器は、会場運営事業者が既製品をリース調達したものであり、活用していた物品は返却済みである。既製品のため、特別な仕様ではないが、競技団体等からの問い合わせがあった場合には事業団で有しているノウハウの提供は可能である。大会報告書にて情報保障の取組を記載するとともに、東京都や競技団体等と連携してノウハウ提供に努める。

○デフリンピック運営委員会

- ・承知した。是非広めていただくと嬉しく思う。

○全日本ろうあ連盟 河原副理事長

- ・最後に、私からの質問をしたいと思います。
- ・今回のデフリンピックの大きな特徴は、企画段階から当事者団体と都、事業団が連携して進めたことにある。このような当事者団体との協働による大会企画・運営を今後行われる国内外の諸大会にも広めるべきであると思うが何か考えているか。
- ・競技におけるデフアスリートに対する情報保障はもちろん必要であるが、きこえない、きこえにくい観客等に対する情報保障も必要であると考え。今回のデフリンピックの開閉会式や競技会場における情報保障に関するデータや情報と改善点をまとめたものを作成し、今後のデフはもちろん、一般の類似大会に活用してもらうことは考えているか。

○東京都

- ・どのような体制を作るかは大会ごとに異なるが、東京都としても、今後のデフスポーツ、パラスポーツや令和 10 年に開催が決まっているねりんピック（高齢者の方の国内大会）においても、当事者の意見を計画に反映することは重要であると考えている。
- ・大会期間中の情報保障の取組については、大会が終了したらそれで終わりではなく、レガシーとして残していくことが重要だと考えている。そのため、来年度以降も東京都が実施するスポーツイベントや、様々な主体が行う各種イベント、あるいは街中でも、この大会で得られたUC技術の知見やノウハウを活用していただけるように、現在UC技術の活用ガイドというものを作成しており、共有していきたいというふうに考えている。

○全日本ろうあ連盟 河原副理事長

- ・承知した。UC技術を活用して共生社会に結び付けていただきたい。
- ・四者で大会の運営における振り返りをし、それぞれの立場における今後に向けた考えを確認することができた。
- ・今回をもって本会議の開催は最後となる。
- ・大会前から四者でしっかりとサービスレベル等の確認をすることができたからこそICSDや各国選手団に満足いただける大会になった。